

四度目の被爆

今回で日本の被爆は四度目です。広島・長崎・第五福竜丸・福島原発、日本は世界に冠たる、まさに核の人体実験場と化しています。

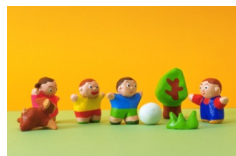
今回の福島原発の惨事は地震による津波が原因です。明治三陸地震・明治二十九年六月十五日に38・2メートルを超える津波を記録しています。石川の志賀原発は21メートル余りです。お隣の福井県は直線約50キ

ロの若狭湾に、敦賀、美浜、大飯、高松に13基の原発が現在稼働しています。集積率は世界第一です。

原発の安全神話、基準の嘘が証明された。騙されたのです。マスコミに流された、千年に一度でも想定外でもありません。百年に一回です。すべてはコスト、補償回避の営利が目的のNHKの推進御用学者達によるマスコミリンクです。核融合反応から80キロ退避が世界の常識にもかかわらず、菅政権はご丁寧に、20キロ以内退避、30キロ以内待機の移動制限です。明らかに恣意的に配慮がされていると考えます。

放射能被害は農地に何十年に渡り、被害はイタイイタイ病の位ではありません。蓄積されることは確実。農家を含め直接的に、二時被害が現実化しています。

山一やJALのように経営陣を排除し、倒産する前に損害を政府と東電



に請求すべきでしょう。

米国は核兵器を使わなくても十分に疲弊し、日本が降伏が時間の問題であるのにも係わらず、国際条約で禁止されている毒ガス以上の非人道的な兵器を黄色人種の日本人に、ネバタで爆発実験し、開発した三ヶ月後に二発も使用したのです。近代的兵器だから許されるのでしょうか。

菅政権は先の参議院選挙に於いて国民から完全に不信任

を突きつけられています。今回は「カイワレ」も食わず、雨が降れば、ヘリでも逃げる八百長内閣にも係わらず、首相ポストに固守し、国家的危機に對し、枝野大本営発表を繰り広げている。

最前線の東電現場職員や自衛隊、都庁消防ハイパーレスキュー隊など終戦時の知覧から飛び立ち、空母に突入した特攻隊にダブってくる。

彼らの覚悟に男の色気をなぜか感じる。国旗に会釈し安全な場所から、真新しい青い作業着で、誰かが書く原稿を読む男が恥ずかしい。特攻隊の出現自体、東電と菅

政権（人災）の末路を、いつか来た日本の歴史が明らかに示しているのだが。

好きな言葉

人間は誰だって、この世に生まれようとして生まれたわけじゃない。でも、この世に出てきたからには、誰だっておもしろい生き方をしたいよね。

危険な条件のほうに自分の運命を懸ける方が情熱がわいてくるものだ。おのれだけが自分じゃない。向こうから追ってくる運命というものも、自分自身なんだよ。

―岡本太郎

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年3月31日(木) NO 184

地域から明るい未来を作ろう

義援金だけでなく

未曾有の大災害に相對して自分自身、今一体何をすればよいのだろうか。出来るのだろうか。想いを形に、行動が出来るだろうか。平成19年の4年前は地震ボランティアで能登や柏崎に参加。

（便り、NO8号参照）その前、東尋坊でナホトカ号座礁がボランティア初体験でした。現場はTVで見るとは空気感や臭いがあり

ます。異様な殺気、冷気と言うか映像では絶対に分かりません。現場に立ち会って体を使う事でしたか悲惨さは実感できないものです。

貴重な原体験をさせる母親の感性に高貴なものを感じたのを思い出した。実際ボランティアに参加される人は、経済的にも豊かな人が少ない、多くの問題を抱える弱者が多いのをその時

能登地震災害の時、関東からの母親と十二歳の中学一年になる男子と一緒に、倒壊家屋の家財搬出の作業をしました。彼の人生の中で

私は知った。絶対ですが、政治家や企業の代表が、人知れずボランティアで何日も体を使った事が無いと思う。